

# 人文研紀要

第47号～第49号(2003年)

◆第47号—2003年(2003年10月発行 A5版361頁)

〈破壊〉と〈創造〉 —D.H.ロレンスの思想と方法—	深澤 俊
「近代」イギリス詩人と文化論 —T.S.エリオットの場合—	松本 啓
物語は踊る —『ワイズ・チルドレン』における文化の政治学—	中和 彩子
『ワット』におけるホロコーストの足音	鈴木 邦成
アン・ブロンテの詩の構造 —その絶筆を読む—	森松 健介
インスケープと心 —G.M.ホプキンスのソネット—	土屋 繁子
土地にかける思い —リーヴァヒューム卿と対決するルイス島民—	小菅 奎申
On Beckett's <i>Malone Dies</i> : the comedy of a storyteller	Fumiko KITA
ニューイングランド方言の音韻体系	後藤 弘樹
メルヴィルの諦念	星野 孝行
子午線をめぐる燕たち —ツェラーンとマンデリシュターム(2)	関口 裕昭
失われた「物語」を求めて —ヴィム・ヴェンダース『ベルリン・天使の詩』—	吉田 敦子
ヴィクトリア朝の大衆演劇と笑い(その三) —H.J.バイロン『我らが息子たち』(1875年)	井出 弘之

◆第48号—2003年(2003年10月発行 A5版293頁)

翻訳プロセスにおける「語感」の働きについて	吉村 謙輔
朝鮮の開港期における米の輸出(1)	李 榮娘
張樂平『三毛今昔』について	材木谷 敦
新詩語の形成(4) —徐志摩の「生命」をめぐって—	山本 明
傍聴生 夏目金之助 —漱石とUCL—	諏訪部 仁
『遠野物語』 少考	田野崎 昭夫
憲法第20条「政教分離」の原理的考察に向けて —「国家と宗教」その深層—	河上 暁弘
《研究ノート》 —茶の英訳 —創造的翻訳, 翻訳の限界—	江田 孝臣
魏祥とその一族 —倭寇による被虜人衛所官の世襲問題をめぐって—	川越 泰博
女直授官と朝鮮王朝 —端宗三年の事例を通して—	荷見 守義
唐最晩期のタングートの動向 —西夏建国前史の再検討(三)	岩崎 力

◆第49号—2003年(2003年10月発行 A5版328頁)

Kollektive Gewalt heterogener Bewegungen im Mittelalter	Uwe MAKINO
人体特許と公序良俗 —人格・所有・知的財産権—	古田 裕清
反共十字軍としてのSS外人部隊 —ユダヤボルシェヴィズムに対する「聖戦」—	白根澤 正士
クラウス・マンとユダヤ人たち —ある「親和力」について—	飯塚 公夫
ことばの裏側(序)	中村 昇
DEUX NOUVELLES FIGURES DE L'ETRANGER d'Abdelkebir Khatibi	Michaël FERRIER
Las <i>Coplas de Mingo Revulgo</i> y su dramaticidad	Hiroko KARIYA
A Table on a Stage : Examining How to Reproduce the Late Medieval Dramatisation of the Last Supper (1)	Yumi DOHI
Une traîtrise envers les musulmans transformée en un acte héroïque par l'esprit de la croisade	Naoyuki OGAWA
神話の風景 —「水」(メソポタミア)	金光 仁三郎
アーサー王物語における固有名の神話学 (その2) —トリスタンの名をめぐって—	渡邊 浩司
中世ドイツの世界年代記写本挿絵における物語る手段としての画枠について	鈴木 桂子
モードレッド懐胎をめぐって —『メルラン』, 『続メルラン』, マロリ—	小路 邦子
ベルナルド・デル・カルピオの伝説(一)	福井 千春